

三方分山道迷い(2013年1月)

積雪期にパノラマ台までの山行を計画。時間もあつたため、三方分山の周回コースへ計画変更。尾根道は、雪の吹き溜まりもあり、時間がかかる。周回コースを諦め、元来た道に戻る決断をしたのは、午後3時。夕暮れ間近であった。積雪期の行動判断の重要性を示す事例である。



解説

パノラマ台まで、雪のため通常の3倍の時間を費やす。それでも、時間があつたため、三方分山への周回コースを辿った。尾根上は、積雪が約1mもあり、行動に時間がかかる。午後から、曇ってきた。山頂に到着し、時間も午後3時を回り、不安がよぎる。このまま新雪を精進湖トンネルの方まで下るか、元来た道に戻るか2つの選択は、「元来た道に戻る」であつた。吹雪いていないため、トレースが消えることはなかったが、元来た尾根上の道は積雪のため歩きづらかつた。真っ暗闇となり、心細いヘッドライトの明かりを頼りに、歩き続け、午後10時35分ようやく元の駐車場に辿り着いた。

トレースのない尾根道。積雪が1m近くあり、通常時とは全く違うスピードでしか歩けない。冬期に暗闇が迫ってくる不安。単独行。精進湖トンネルへ進んだ方が、近道だが、ラッセルと不安がそれを許さない。しかし、トレースがしっかりしていたため、戻った方が懸命だったようにも思われる。「突っ込むのか、戻るのか」どのタイミングで判断するのか自問自答が繰り返される。こういう経験は皆さんしたことがあるだろう。午後1時を回った段階では、三方分山のはるか手前を歩いていたと推測される。午後1時の段階で、判断をしておきたかつた。